



『犬のかべかざり』



5年

横田 一裕くん

※こまかいところを切りぬく時が、むずかしかったです。耳の部分はよくできました。



『ピアノカをふく友だち』



3年

栗田 明美さん

※コスモス畑で、友だちが、ピアノカをふいているところです。



6年

上楽 加代子さん

※全体的にすずしい感じの絵になつてしまったので、上の文字を赤くしてみました。



『防火ポスター』



4年

越川 睦子さん

※小太鼓を打つ友だちの手をかくのがむずかしかった。



『小太鼓を打つ友だち』

# ひかり歌壇

紅の直線の橋うすれゆき利根の  
対岸夕づきにけり

大林 恒吉 (長塚)

夕昏れの川べりは何となく哀愁が迫つて  
来ます。

さくさくと霜に浮き立つ草を刈る  
庭に萌え初む花芽いとしむ

青柳 フミ (橋場)

霜柱の立つ早春の庭辺に萌え初む花の新  
芽を見つけた喜びは一入でしょう。

さりげなく交す言葉を選び次ぐ  
咳こむ君を癌と知りゐて

椎名 静子 (二又)

優しい思ひやりの深いお人柄が上句によ  
く表わされました。

雲間より一線洩るる冬陽差し  
慕はしみつつ庭の草引く

土屋 好 (虫生)

庭草を引く作者の静かな感性が雲間を洩  
るる柔らかな日ざしに表現されました。

評者 竹内 紀葉